

2023年6月8日

学校法人三幸学園  
東京未来大学福祉保育専門学校  
校長 菅井 健治 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 松縄 和彦

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 松縄 和彦 (社会福祉法人三幸福社会 理事)
- ② 山岸 覚 (足立区くらしとしごとの相談センター センター長) 〈欠席〉
- ③ 平井 宏子 (SANKO 日本語学校 教務主任)
- ④ 堤 隆太 (飛鳥未来高等学校綾瀬キャンパス 教頭)
- ⑤ 姉崎 隼 (ぼけっとランド綾瀬 園長)
- ⑥ 法京 愛実 (東京未来大学福祉保育専門学校 2022年度卒業生)
- ⑦ 山下 麻衣 (東京未来大学福祉保育専門学校 2022年度卒業生)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月30日 (会場 東京未来大学福祉保育専門学校 図書室)

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022年度 学校法人 三幸学園 東京未来大学福祉保育専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小平 香織

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松縄 和彦

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、福祉保育分野の学校として「福祉・保育現場に貢献することで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、福祉保育分野として「豊かな人間性と確かな技術で、関わる人に、幸せや希望を提供できる人」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ①前年度重点施策振り返り

#### ●主体的に学べる仕組み作り＝行事の活用

3年振りに姉妹校合同行事である三幸フェスティバルを開催するにあたり、各クラスの委員やリーダーが目標を設定し、その設定した目標のためにクラスを団結させ、練習を指導するなど、学生が中心に立って運営をすることで学校全体が行事に対して主体的に臨むことが出来た。行事満足度も90.0%と非常に高く、次年度もリーダーをやりたいとの声が上がったり、三幸フェスティバル以降の雰囲気好転するクラスがあったりと、次年度につながる良い教育効果をもたらすことが出来た。

介護発表会は初の試みとして、発表内容を選択制にすることで生徒が主体的に取り組める仕掛けとした。保育発表会においては教員が前に出ることはなく、運営全てにおいて生徒が主体性を発揮できる行事の場として活用している。

#### ●生徒の長所を見つけ・伸ばす仕組み作り

#### ＝生徒全員にスポットライトを当て長所を見つけ伸ばしていく(授業・行事)

担任教員中心に長所を見つけ、声掛けするだけでなく、土日のオープンキャンパスをサポートするキャストや、保育の産学連携みらいキッズ、ぼけっとサークル、介護の産学連携チャレンジド・ヨガ、行事を通しそれぞれが活躍する場を提供出来た。

卒業生アンケートでは、「本校で成長することができましたか」の問いに対し下記の結果となっており、卒業生のほとんどが成長実感を得て卒業していることが分かる。

保育科 出来た 81.6%(73.1%) どちらかと言えば出来た 17.1%(26.9%) 計 98.7%(100%)

介護福祉科 出来た 63.3%(54.3%) どちらかと言えば出来た 34.7%(34.8%) 計 98%(89.1%)

全校平均 出来た 62.2%(60.9%) どちらかと言えば出来た 34.3%(34.9%) 計 96.5%(95.8%)

※( )内は2021年度数値

●徹底した声掛け・連携＝授業後には必ず声掛けし情報共有を図る

担任から教科担当へ声掛けし情報共有を図る意識は醸成出来たが、個人差があることが課題。これまで以上に教科担当の立場に立った情報発信や巻き込みをしていくことで、より一層の協力関係を図りたい。

●専門教育の充実と魅力的な授業展開

＝担当授業のブラッシュアップ、教科会の活用、授業研究

年に3回の全体会議の際に実施する教科会では、カリキュラムマップを共有することにより、教科の関係性を明示することで教科間連携を取りやすい環境にした。この教科会は教務力向上の良い機会なので2023年度も継続して実施していきたい。

介護福祉科、保育科共にテスト時期を統一することにより全教員周知の下、テストに集中出来る環境を設定した。今年度は、介護福祉科において学科間での連携をより強化するために教務主任がテストを回収・確認、必要な教科においては定期試験までに小テストを実施。また、介護福祉科1年生よりタブレットが全授業導入されるため、タブレット導入にあたる研修も実施し対応をしている。

② 学校関係者評価委員会コメント

・在学時は先生方の後押しやサポートに助けられた。しかし、決して強制的ではなく、あくまで後押し・サポートという形で、主体的に学べる環境というのをとてもよく感じた。また、一人の生徒が本気になることで、周りも巻き込み、クラスだけでなく学年、学科と本気が伝播していく雰囲気があった。生徒だけでなく教師陣も本気で取り組んでいるのが学生にも伝わっているため、学校全体の一体感、居心地の良さにもつながっているのではないか。(山下委員:保育科・介護福祉科について)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

・社会経済のニーズ等の情報収集をする場が、主に年2回の教育課程編成委員会のみになっている。

#### ② 今後の改善方策

・実習巡回や就職先の訪問等において、実習生・就職者のフォローだけでなく、社会経済のニーズ等の情報収集も目的に加え実施していく。

・普段の業務や生活の中で何気なく収集している社会経済のニーズ等を集約し、全体で共有する場を設ける。

#### ③ 特記事項

特になし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校の職場体験を専門学校を通して三幸福社会・ぽけっとランドと連携を行いたい。高校、専門、保育、介護で連携することでそれぞれの業界の現状や情報交換をする場にもなるのではないかと。（柴田教務主任：保育科・介護福祉科について）

・職場体験について、前向きに検討したい。高校生のうちに現場を見せ、ゴールを明確にしておくことができると高校における指導の際の声掛けも変わってくると思う。加えて、高校の教員に少しでも業界の知識があれば目標がない、やりたいことがない、という学生に対して、その子の特性を見ながら保育や介護の仕事を提案していくことができる。（堤委員：保育科・介護福祉科について）

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・事業活動に沿った運営方針として、教育活動に関する目標や課題、重点施策等は明確にしており、学校運営に関わる教職員には十分に周知できているが、学生に対しては共有しきれていない部分がある。
- ・情報システム化は進んでいるものの、業務の効率化についてはまだまだ課題が残る。効率的、効果的に業務を進めるためには情報システムを使いこなせる人材の育成が必要である。

### ② 今後の改善方策

- ・ホームルーム等で学生にも、本校の学生として目指してほしい到達点の共有をし、学生自身にも目標を意識した学校生活を送ってもらうようにする。
- ・業務を効率的、効果的に進められるよう、会議で強化点を共有したり、研修を行ったりするなどして人材育成に力を入れていきたい。

### ③ 特記事項

特になし

### ③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学校運営においては概ね適切であると感じている。目標や課題、重点施策の生徒への周知について尽力頂くことで、運営方針がしっかりと浸透し遂行されるのではないかと。（堤委員：保育科・介護福祉科について）
- ・担任の先生だけでなく講師の先生も就職について声掛けや相談に乗ってくれる雰囲気はうれしく、学校生活において心地よかった。ホームルームだけでなく、様々な授業で講師の先生からも目標や到達点を伝えていくとよりたくさん生徒に浸透するのではないかと。（山下委員：保育科・介護福祉科について）
- ・情報システム化が業務効率につながるために人材育成が必要なのは現場でも同様である。現場としても尽力していきたい課題の一つである。（松縄委員：保育科・介護福祉科について）

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

- ・時代の流れに応じてタブレット端末を使用しての授業が介護福祉科で開始されたが、保育科を含めた学校全体への普及や使用方法などの確立が難しい。
- ・保育士養成協議会や介護福祉士養成施設協会などの研修に参加できていない。

#### ② 今後の改善方策

- ・デジタル教材の使用方法などを教員会議で共有し今後を活用していく。
- ・研修会への参加を増やしていく。

#### ③ 特記事項

特になし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学時点でのピアノの習熟度は学生によって異なるが、レベルに合った教え方をしてくれるので初心者 of 学生は置き去りにされることなく、レベルの高い生徒が物足りなさを感じることもなかった。制作物が多く期限が

重なり大変なこともあったが、現場で働き始めてからその制作物が活用できている。必要性を明確に説明しうえで作成に入ると学生はより前向きな気持ちで取り組めるのではないか。(山下委員:保育科について)

・昨年度は実習のカリキュラム変更で早めに国家試験対策に取り組むことができた。それに加え、学習の習熟レベルによるクラス分けで、学生のレベルに合わせて学習できた。しかし、授業で国家試験について触れられるのは2年生になってからであり、1年生後期の時点で試験対策が間に合うかという不安があった。受験年度でテキストが異なりはするが、先輩が使っていたテキストや勉強法を1年生のときから伝えておくと、早く学習を進めていきたい学生は自己学習を始められると思う。(法京委員:介護福祉科について)

・保育士になりたいという意欲をもって専門学校に入学し、2年間勉強をしてから就職してきているのでやる気はあり、仕事に対する姿勢については問題ないが、保護者対応等子ども以外と接する際の言葉遣いなどの社会人として働いていくための一般常識が不十分だと感じることもある。子どもへの対応は問題なく、愛情も非常に感じるので、それ以外の部分で評価を落としてしまうのはもったいない。教養部分の指導を強化していくことで、保育士としてだけでなく社会人としても自信を持って社会に出ていける人材を育てることができるのではないか。(姉崎委員:保育科について)

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

##### ① 課題

- ・就職対策などを強化して改善が見受けられたが、高年齢者・能力的に難しい生徒の就職斡旋が難航した。
- ・退学率は激減したが、まだ目標喪失の生徒へのアプローチ方法を模索している。

##### ② 今後の改善方策

- ・就職活動前に、高年齢者向けの説明会や動機付けを開催する。
- ・能力的に難しい生徒は早急に保護者面談を実施し、いきなり正社員雇用を目指すのではなく、最初はパート社員や契約社員を経てからの正社員登用を目指すなどの説明をする。
- ・入学後の目標喪失を防ぐために事前のオリエンテーションなどで学校概要の詳細を説明しておく。

##### ③ 特記事項

特になし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・同じ校舎にある通信制高校卒業生からの進学だと、気持ちが切り替えられないというデメリットがあるのではないか。入学前には書類レベルでの情報しかないが同じ校舎にあるというメリットを生かし、入学前に教員同士の面談で情報を共有できると、個々の状況を知った上でクラス分けや対応を考えることができる。（徳永保育科主任:保育科・介護福祉科について）
- ・専門学校入学前に専門の教員と高校の教員とで、面談を行っていくことは可能。高校としてもぜひやりたい。しかし、学生は変わっていく可能性が大いにあるため、先入観を持ってもらいたくない。
- また、専門学校の先生から、専門学校に通う覚悟を説明しておくことの必要性を感じている。学生が学校に来るだけで褒められていた環境から、来て当然の学校に変わることを知っておくべき。入学前にそれを知っておくことが退学の防止にもつながっていくのではないかと。（堤委員:保育科・介護福祉科について）
- ・留学生については、介護という仕事についてあまり知らない状態での入学だと、入学後に業界へのギャップを感じてしまう。日本語学校の教員からも介護業界についてや専門学校での生活や勉強内容を説明できるよう、入学前に何を教えておくべきか何が必要かを共有してもらえると、日本語学校在学中に伝えておくことができ、留学生の退学を減らすことができるのではないかと。（平井委員:介護福祉科について）
- ・当施設では障がい者の雇用も行っており、精神障がいや知的障がいを持っている方は雇用実績がある。身体障がい者については、内臓疾患はあるがそれ以外についての事例は少ない。しかし、合理的配慮が必要な方をたくさん雇用していくのは難しい現状があり、入社前にどのような配慮が必要かを綿密に話し合い、合意した上で雇用していくことが必要。（松縄委員:介護福祉科について）



## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

- ・能力的に難しい学生や、業界外の就職を目指す学生に対して早い段階でのサポートが必要。
- ・委託訓練生の就職に対する意識が低かった。
- ・就職後、早期離職してしまうケースが見られた。

### ② 今後の改善方策

- ・実習と就職担当者を統一し、エリア担当としてアプローチを行う。
- ・委託訓練生には別途説明会を開催し就職の位置づけを確認する。
- ・自己分析を行い、強みを把握した上で自身に合う企業を見つけられるような支援を行う。

### ③ 特記事項

- ・特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場経験のある講師の先生の話が実情を教えてくれるので、現場を知らない教員の話より学生に響くのではないかと。リアルな話を聞いておくことで、就職後のギャップは少なかったように感じている。（法京委員：介護福祉科について）

・当施設では、1年の職員には必ず指導役（プリセクター）が付く制度がある。月1回進捗面談も行っているがそれ以外でも、何かあったらまずはプリセクターに相談できる環境があり、人事評価もそのプリセクターが行う。また、1年目を集めた同期同士のつながりを作る会を行っている。しかし、そのような制度を取り入れていても毎年1割程度の退職者が出ているのが現状である。（松縄委員：介護福祉科について）

・学生と社会人のギャップを埋めていくための新卒研修がある。また、試用期間中は面談とフィードバックを定期的に行い、ケアを行っている。当園は小規模な園なので、職員全体でどのようなサポートを行っていくか考え、1年目の職員が安心して働ける環境、雰囲気を作り込みに努めている。（姉崎委員：保育科について）

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

- ・教室数に限りがあり、最低限の教室数で授業運営を行っている。
- ・防災に関するマニュアルはあるが、教員・生徒の理解の浸透が必要。

### ② 今後の改善方策

- ・3階4階フロアの飛鳥未来高校が2024年度校舎を移転する為、教室数を拡大していく。
- ・生徒の防災意識向上の為、HR内での周知とともに学園内ICTツールのアプリを通じて、避難経路や防災マニュアルを常に掲載する。
- ・防災意識を防災行動へ繋げる為、生徒へ予告をせず避難訓練を実施する。

### ③ 特記事項

- ・実習中は各学科の担当教員が実習先を訪問し、学生の状況を把握するとともに担任とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
- ・ICTの導入を強化し、Wi-Fiを各教室に完備。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・現在の高校1、2年生はタブレットを購入してからの入学が必須となっているため、入学相談の時点でスペック表を渡して、必ず必要なスペックのある機器を買うように促している。通信制の当校はスクーリングと課題・レポートの提出が必須だが、現在、レポートはデジタルのみで受け付けている。教員の採点・講評もデジタルで行い、答案を学生に返すのもデジタルのみである。文科省のギガスクール構想により、ICT化が急速に進められているが高校3年生は未導入のため全て紙媒体で行っており、急速な変化に教員側が対応しきれていない。機械の操作に慣れ、感覚的に操作できる学生の方が順応が早い現状があるため、教員側のアップデートが必要である。（堤委員:保育科・介護福祉科について）

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

・コロナ禍の影響で、留学生の受け入れに苦戦したこともあり、介護福祉科が数年ぶりに定員割れをした。

### ② 今後の改善方策

・2023年度は、留学生の卒業生数が大幅に増える予定のため、日本語学校訪問を強化し、留学生の受け入れに力を入れる。

・オープンキャンパス参加者に確実に出席してもらうためにも、在校生スタッフの育成に力を入れていく。

### ③ 特記事項

・前年度は、辞退者の多さが課題として挙がっていたが、合格者向けイベントを2度開催し、不安解消と学校生活への期待を高める機会を設定することができたこともあり、辞退者数は大幅に減った。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・自分で調べて進学先を選ぶ留学生もいるが、留学生の進路選択は教員主導な部分が多い。コロナ禍で減っていた留学生が今年度卒業から増えるため、早く進学先(専門学校)へ願書を出さないと定員が埋まってしまうのではないかと焦っている教員と、日本語学校の学費も前期・後期で分割しながらギリギリで納付しているため、進学先のことまで考えられない留学生とで進路について考え始めるタイミングに差がある。また、留学生のお金が貯まり卒業後のことを考えるのは専門学校の出願受付が始まる夏以降になるが、留学生は用意できるお金で進学できる範囲から進学先を選択することになる。年度初めに希望していた進路と現実的に考えた際の経済状況によって進路変更を余儀なくされる学生が多いため、留学生が現実的に進路を考え始めたタイミングでガイダンスや広報活動を行うと効果的なのではないか。(平井委員:介護福祉科について)

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

#### ① 課題

特になし

#### ② 今後の改善方策

特になし

#### ③ 特記事項

特になし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

### ① 課題

#### 【保育科】

・更にみらいキッズへの参加者人数の安定をはかる。

#### 【介護福祉科】

- ・メディアへの参加、福祉用具の企業とタイアップができた。
- ・2021年度同様、定期的にチャレンジド・ヨガを実施できたが、学生の積極性が弱かった。
- ・コロナ禍のため介護施設との連携はできなかった。

### ② 今後の改善方策

#### 【保育科】

・近隣の保育園にチラシを配布するだけでなく、地域の子育て関係の SNS で発信するなど広報範囲を広げる。

#### 【介護福祉科】

- ・今年度から介護過程の授業カリキュラムに取り込み、1年生は必ず一人一回参加できるようにする。
- ・葛飾ろう学校との連携（ろう学校の理解と学生同士の交流）
- ・福祉用具の企業とコラボ事業を開催。
- ・高齢者施設へのボランティア活動参加。

### ③ 特記事項

#### 【保育科】

・みらいキッズ:月に1回、地域の子どもたちを呼んで季節の行事、製作に親しめるよう学生が企画運営している。2021年度はコロナ禍で参加者募集に苦戦していたが、2022年度は近隣の園にチラシを配布するなどして参加者の人数が開催できる程度に増え、リピーターの姿も見られた。

#### 【介護福祉科】

- ・チャレンジド・ヨガ:月に1回、ボランティア団体主催で足立在住の視覚障がい者を対象としたヨガを開催しており、当校は場所の貸し出しと学生ボランティアの募集を行なっている。2022年度は毎回 3～4 名の学生がボランティアとして参加していたが、2023年度はより多くの学生が参加するよう授業カリキュラムに取り込む予定。
- ・学生が介護実習以外で、様々な方と交流が図れる機会をつくり、介護福祉士としての視野を広げることを意識し産学連携をしていく。
- ・カリキュラムに地域連携を含み更なる実践力を強みとした教育活動を行いたい。

#### 【その他】

・フードパントリー:2022年度は月に1回、フードパントリーの会場として施設の貸し出しをしていた。2023年度は施設の貸出が有料になった関係で貸出の予定はなし。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・コロナ禍で参加者(子ども)が少ないタイミングはあったが、それによって子ども一人ひとりとゆつくりと向き合ったり観察することができた。午前と午後で開催するので間の時間で改善点を生徒同士で相談し、午後すぐに改善して実践することもできたので、実習先でも経験を生かすことができた。参加者が増えると臨機応変な対応も求められるようになると思うが、それも現場では必要な能力だと思うので、参加者が増えることは授業の目的にもより沿ったものになっていくのではないか。(山下委員:保育科について)

#### (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

#### ① 課題

- ・留学生の入学者が1桁となり全体の入学者が減少した。
- ・学費ネック、単位不良者等様々な問題が生じ学生指導・管理が困難となった。
- ・スポンサーの活用に対し消極的な学生が多かった。
- ・日本語の理解が難しいため授業内容が把握できない。

#### ② 今後の改善方策

- ・卒業生、在校生が卒業した日本語学校へ訪問し、関係構築を行う。
- ・留学生サポートセンターや入国管理局に意見をもらい、適切な対応を迅速に行う。
- ・スポンサー活用のメリットを十分に説明し理解してもらうことで、2年間安心して学校生活を送れるようにする。

#### ③ 特記事項

- ・留学生に対し、実習前のフォローアップ授業やサポート授業を実施した。また、2年次にはクラス替えを行い、学習の進捗がほぼ同じ学生と一緒にした。
- ・就職希望先へ留学生の理解を深めてもらうため、面接や施設見学等に同行した。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・留学生は日本語の意味を調べながら勉強をしている。国家試験の勉強と並行して日本語も学習しなくてはならないのが大変だということは日本人の学生から見ても明白である。授業のプリントにフリガナがあるものとならないのが大変だということは日本人の学生から見ても明白である。授業のプリントにフリガナがあるものとならないものがあつたが、全てに振ってあると留学生は学びやすいのではないか。留学生が日本人学生と同じ条件で学べる環境が整うと、国家試験の合格率も上がるのではないか。(法京委員:介護福祉科について)

・日本語学校の教員と専門学校教員が考えるあたり前には隔たりがあるように感じている。日本語学校の教員は日本語の能力をどれだけ上げられるか、ということが目標であり、日本語学校を卒業した後の生活についてまで考えさせるには至っていない。そのため、専門学校の単位や卒業についてのルールをよく理解しない

まま進学している留学生が多いので、日本語学校在学中に知っておくべき専門学校のルールなどを教えておいてもらえると、専門学校入学後のギャップを減らすことができ、学校生活にも早く慣れることができるのではないか。

また、日本語学校において、JLPT(日本語能力試験)の受験は必須であり、留学生は取らないといけないから取る、という考えのため、なぜ必要かということまで考えが至っていない。JLPT を持っていることによる今後の日本での生活や就職面でのメリットなどを伝えていくと、意欲も生まれるのではないか。(平井委員:介護福祉科について)

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について、学校関係者評価委員からは概ね適切との評価をいただいた。

福祉、保育の複合施設であるという利点や、三幸学園のスケールメリットを最大限に活かし、飛鳥未来高校の生徒を対象にした職場体験を専門学校を通して三幸福祉会・ぽけっとランドにて実施する提案がなされた。2023年度中に学校行事として実現することにより、早期から福祉、保育の魅力を発信できる役割として地域にも貢献していきたい。また、高校、専門学校、保育、介護で連携することでそれぞれの業界の現状について情報交換をする場としても期待できる。

加えて、飛鳥未来高校、SANKO 日本語学校とより連携を深めるためにも、まずは高校、日本語学校の教員を対象とした福祉、保育の勉強会を実施していきたい。入学後のギャップをなくし、生徒に対して教育効果を高めるためのより深い連携の可能性を感じる会となった。